

2017年度京都医療センター リボنزハウス活動内容

- ・専任スタッフ
- ・場所が化学療法室と腫瘍内科の待合室とがん情報センターを兼ねている
- ・1か月の相談件数 約45件



リボنزハウス定例会議
(専任スタッフ、医師、専門看護師、事務など)



アロマセラピストとして
緩和ケアチームに所属



リボنزハウスの内観
主に各相談をここで聞かせて頂きます



抗がん剤の治療の際の
アピアレンスケアについての
情報提供。入院中の患者さんのお部屋へ行くことも



パンフレットや書籍
の他、6年で蓄積した
情報の提供



イベントの開催、患者会の勉強会
の協力。様々なボランティアとの
連携も大切にしています



相談業務（各部署とも連携）



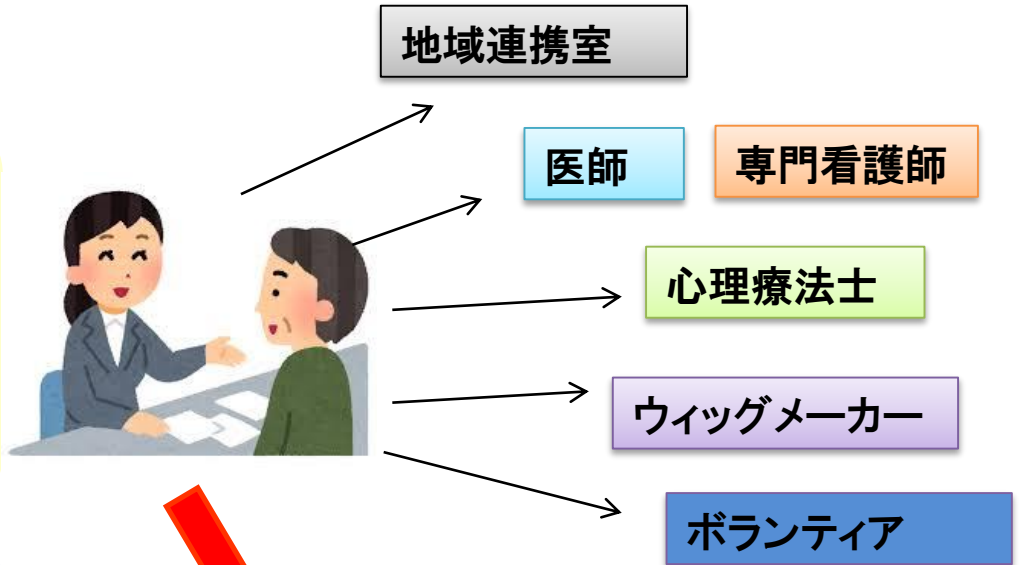
医療スタッフ

「ウィッグやヘアケアの情報を」
 「患者さんの家族の話を聞いてほしい」
 「抗がん剤の副作用軽減にアロマセラピーを」



患者・家族

「悩んでいるけど医師に相談しにくいことがある」
 「誰にも話せない悩みがある」
 「困っている症状があるが、医療者に言うべきか」



安心感

痺れに

傾聴

冷感に

リラックス



アロマセラピーの提供



イベントの様子（がん支え合いの日6月，ホスピス緩和ケア週間10月）



クラシックコンサート



アロマセラピー体験



タオル帽子作成会



医師，薬剤師，アロマセラピストによる講演会



看護師，栄養士，医師による相談コーナー



噺家 笑福亭晃瓶氏による落語



保育園児による合唱

✓ 今後の課題

● 正しいアロマセラピーの周知のために



アロマセラピーはリボンズハウスで大きな役割をはたしています
学会発表や勉強会開催の他、学生に実習など行うなどさらなる
周知活動の必要を感じています

● 必要なものや情報を必要な方へ



タオル帽子



ちあばい



手指や腕の浮腫軽減に
役立ったとの情報



手指が痺れている時
読書に役立ったと寄付
していただいた毛糸の
指サック

タオル帽子やちあばい(=毛糸のお胸)を預かっています。
また、浮腫や副作用軽減に生活の中で良かったという情報も
集まってきています。必要な方へベストな方法でこれらをつなぐ
方法を模索しています

● アピアレンスケアの情報を 必要な方へ



治療中だからこそその
アピアレンスケア
正しく伝えられるよう
新しい情報を収集して
いくことが大切です

● その他

- ・イベントや勉強会開催
- ・書籍の不足
- ・マンパワー不足
- ・細分化した相談への
個々の対応など

